

地域脱炭素推進事業

ゼロカーボンシティの実現
～地域内経済の好循環を目指して～

宮古市企業版ふるさと納税寄附募集プロジェクト



(プロジェクトの概要)

宮古市では、省エネルギー化の推進と再生可能エネルギー・蓄エネルギーの導入拡大の取り組みを加速させ、「地域脱炭素の実現」と「地域内経済循環の拡大」を目指しています。

再エネの取り組みは、東日本大震災の経験を教訓に始まりました。

現在、目指す地域の将来像に「エネルギーの地産地消で実現するゼロカーボンのまち～恵み豊かな自然の継承と地域内経済循環～」を掲げ、取り組みを継続しています。

さらに、環境省の「脱炭素先行地域」(令和4年度)、「脱炭素重点対策実施地域」(令和5年度)の選定を受けたことが追い風となっています。

震災後から継続してきた再エネの取り組みを強みに、省エネ、蓄エネを組み合わせ、ゼロカーボンシティの実現につなげます。

■キーワード:「再エネの地産地消」「地域脱炭素」「地域内経済循環」

◇宮古市の地域脱炭素イメージキャラクター「デカボン」

脱炭素を身近に感じてもらうため、
市民向けの普及啓発にあたっては、「デカボン」を活用しています。



デカボンのSNS



宮古市の地域脱炭素イメージキャラクター

デカボン

(事業の具体的な内容)

● 夜間連系太陽光発電所由来の再エネ電力供給開始

- ・田老地区で整備中の夜間連系太陽光発電所は、蓄電池を併設し昼夜を問わず電力供給が可能な施設として、令和7年12月に商業運転を開始する予定です。
- ・夜間連系太陽光発電所由来の再エネ電力は、地域新電力である宮古新電力を通じて、脱炭素先行地域内に供給される計画です。
- ・公共施設が購入する再エネ電力の環境価値分に対し、寄附金を財源として活用します。

● 国産中型風力発電所の整備

- ・令和7年度に調査、令和8年度から9年度に工事を行う予定です。
- ・地産地消型の国産中型風力発電所の整備は岩手県初の試みです。
- ・国の交付金の活用を見込んでいるほか、寄附金を活用し、市独自の補助を行います。

● その他の取り組み

- ・「省エネ化」、「再エネ・蓄エネ導入」、「市民の意識向上・行動変容の促進」等「再エネの地産地消」「地域脱炭素」「地域内経済循環」につながる取り組みを実施するにあたり、寄附金を財源として活用します。



(事業費)

343,471 千円

(寄附目標額)

20,000 千円

(企業の皆様へのメッセージ)

環境省の地域経済分析によると、宮古市全体のエネルギー購入費用約112億円が市域外に支払われていると推計されています。

自分たちでエネルギーを創り出して使う、つまり、再生可能エネルギーを地産し、地消できれば、この莫大な費用の何割かを市内に留まらせることができ、地域の中で経済の好循環を創り出せると考えています。

「地域脱炭素」と「地域経済の好循環の拡大」を同時に実現できる取り組みに賛同をお願いします。

■寄附に対するお礼：感謝状手交(贈呈式開催)、発電所等の視察受入、市HPへの企業名の掲載